

米国の産業用ファブリックの市場動向

7月21日に開催されたIFAI(国際産業ファブリック協会)ジャパン・フォーラムでのスティーブン・M・ワーナー氏(IFAI・プレジデント)の講演に基づき、米国の産業用ファブリックの市場動向を紹介する。

産業用ファブリックの市場の変化

米国の産業用ファブリック市場は、過去3年間で、規模や構造が大きく変化した。その後、需要は回復傾向を示しているが、業界では3年前と同じ水準に戻すことは難しいと見ている。多くの素材・機器のサプライヤーが消滅しており、残ったサプライヤーも特定分野に絞り込む形で縮小している。加工関連企業は生産ラインを多様化させて、幅広い分野に対応することで生き残りを図っている。特に大きく縮小したのが自動車関係と建設関係である。自動車の生産台数は1,600万台から1,100万台へ500万台も減少した。1台当たり平均で約35㎡のファブリックを使用することから、合計1億7,500万㎡もの需要が失われたことになる。

2010年の米国経済は回復を見込んでいるが、製造業だけで見ると回復幅は3%程度と低く設定されている。原材料の価格高騰問題、銀行の中小企業への貸渋り問題、消費者の購買意欲停滞など不安定要素が多く、依然苦しい状況が続いている。

米国で需要が拡大している分野

軍需関係

米国で唯一保護された市場である。法律(Berry and Heffner amendments)により米国で製造されたものを使用しなければならないことになっている。軍需産業での使用実績により、他分野でも採用が進む流れができ上がっており、高性能・高機能テキスタイルはまず軍需産業向けに開発されるケースが多くなっている。2009年はイラクやアフガン等での需要増加によって前年比28%増であったが、2010年はイラク需要の減少から前年比8.5%減になると見込んでいる。

土木・建設関係

この分野は国の公共工事によって成長してきた。政府の経済刺激策予算でハイウェイ建設等が行われた結果、6億7,700万㎡のジオシンセティックスが消費され、ジオシンセティックス関係企業40~50社は4.5%

業績を伸ばした。しかし経済刺激策が終了すればこれらの効果はすぐに終わってしまうことから、IFAI はジオシンセティックス協会と共同で米国政府に対して、石炭灰の廃棄時にライナー材で包装することを義務付けることを要望し、これが採用された。向こう 15 年間、安定した売上げが見込める状況となっている。

メキシコ湾における原油流出事故関連

世界的なオイルフェンス特需になっている。オイルフェンス以外にも、油吸着材（不織布）や事故現場での作業用テント等の需要もかなりの規模で増加している。また、使用済みオイルフェンス等の廃棄時にこれらを包装するライナー材の需要も発生しており、全体で見ると非常に大きな規模の需要になっている。

米国から見た有望なアジア市場

アジア太平洋地域 60 カ国のうち、インドネシアやマレーシアなど 16 カ国を産業用ファブリックの消費地として重要視している。米国商務省等の資料によると、全体の輸出量が減っている中、アジア太平洋地域への輸出量は増加しており、この 16 カ国向けの輸出額は 3 億 700 万ドルに達している（ベトナム向けは前年比 39% 増、インドネシア向けは同 20% 増）。この急激な需要増の要因としては、環境対応、ライフスタイルの変化、政府によるインフラ整備プロジェクトが挙げられる。

環境対応

各国政府は環境対応（省エネ・節水対応、再生可能エネルギー導入、大気・水質の浄化など）に総額 3,000 億ドルもの予算を計上している。

特にオーストラリアでは、将来の人口増による水不足対策として海水の淡水化に積極的である。

ライフスタイルの変化

生活水準の向上に伴う消費拡大（自動車等）、快適な生活環境の要求、長寿命化による医療・ヘルスケア関係の需要拡大が見込まれる。

政府によるインフラ整備（土木・建設関係）

インドネシアは 70 億ドル、マレーシアは 27 億 5 千万ドルをインフラ整備に投入する計画。シンガポールも現状のインフラ整備を 3 年間継続する予定。タイは Stronger Thai プロジェクトにより、2011 年度に 59 億ドルを予算化する計画である。

注目される IFAI EXPO アジア 2011

IFAI は、成長するアジア市場をターゲットに、2011 年 3 月 22 日～25 日、マリーナ・ベイ・サンズ（シンガポール）にて IFAI EXPO アジア 2011 を開催する。産業繊維資材総合国際展示会として、織布、ニット、複合資材関連を幅広くカバーした展示会となる予定。

（担当：技術グループ 大松沢）

